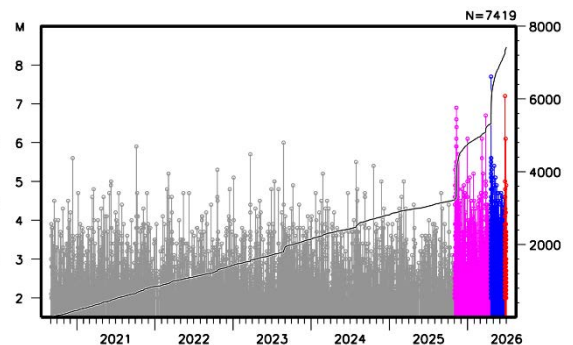
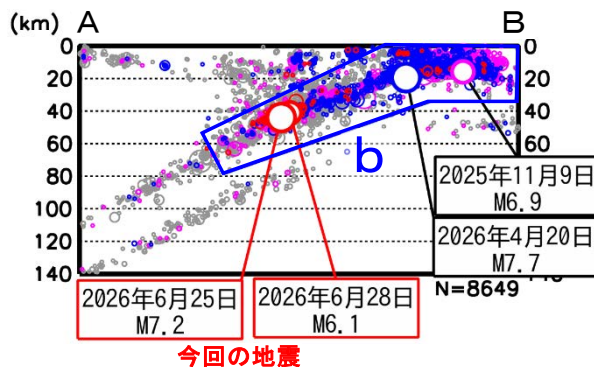
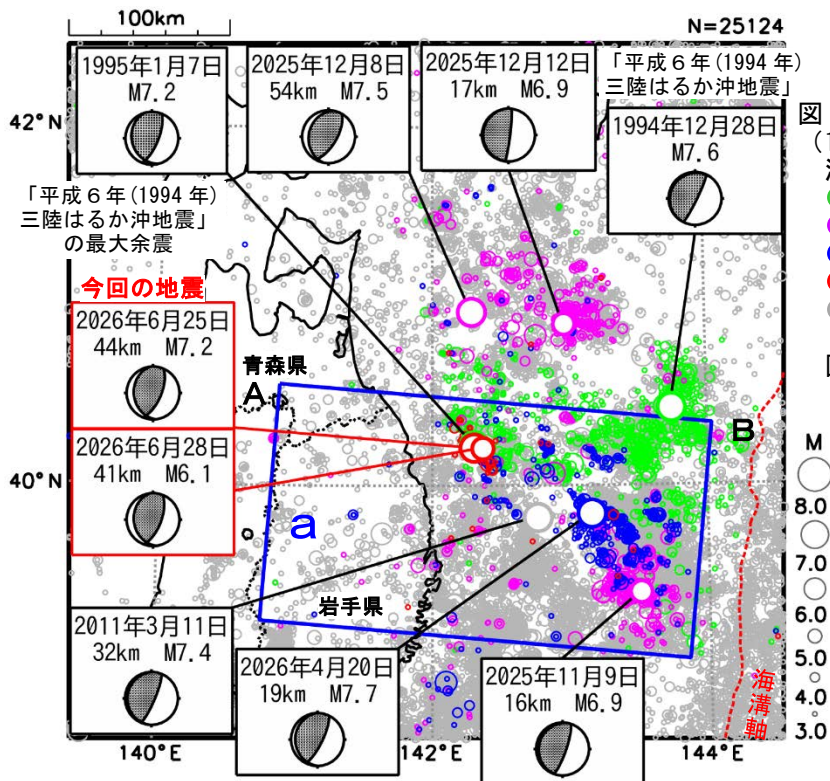


（２）地震活動

ア. 地震の発生場所の詳細及び地震の発生状況

6月25日07時30分に岩手県沖の深さ44kmでM7.2（最大震度6強）の地震が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。今回の地震の震央周辺では、2025年11月4日から三陸沖でまとまった地震活動が見られるようになり、2025年11月9日にM6.9の地震（最大震度4）が発生した。また、M6.9の地震の北西側で2026年4月20日にM7.7の地震（最大震度5強）が発生し、地震活動域がさらに北西側に広がった。今回の地震は、これらの活動域の北西端で発生しており、今回の地震の震源付近では、6月28日にM6.1（最大震度5弱）の地震が発生するなど、活発な地震活動は継続している。なお、領域aの北側では、2025年12月8日に青森県東方沖でM7.5（最大震度6強）の地震が発生するなど、地震活動が見られている。

1994年12月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近では、1995年1月7日にM7.2（最大震度5、「平成6年（1994年）三陸はるか沖地震」の最大余震）の地震が発生している。



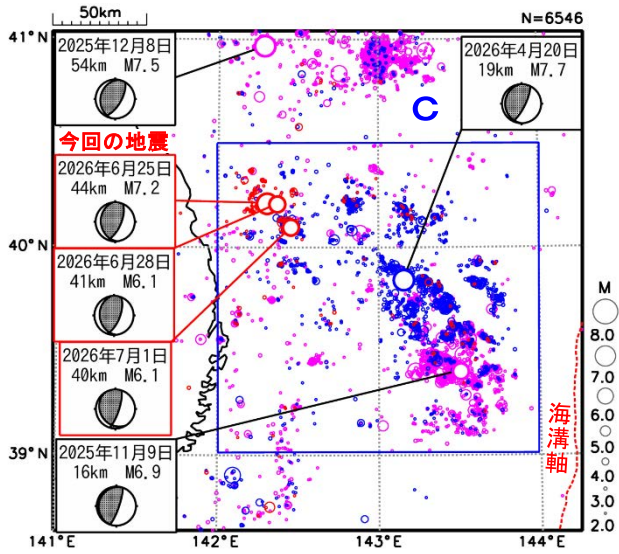


図2—4 震央分布図
(2025年11月1日～2026年7月4日、
深さ0～80km、 $M \geq 2.0$)
○ 2025年11月1日～2026年4月19日
● 2026年4月20日～2026年6月24日
● 2026年6月25日以降
図中の発震機構はCMT解を示す

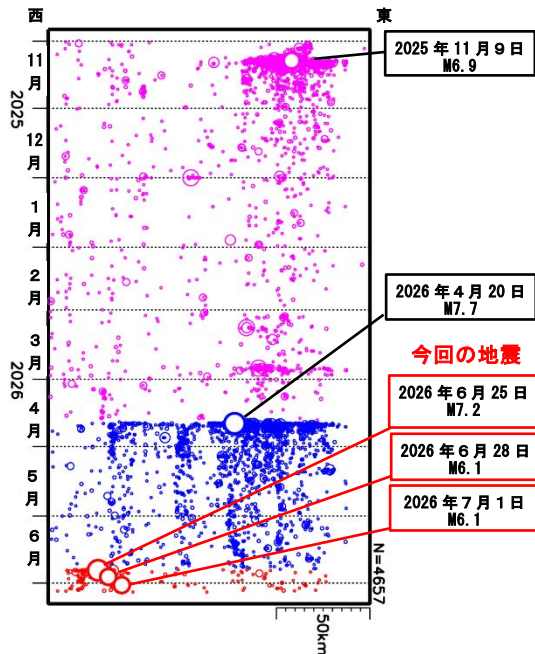


図2—6 領域c内の時空間分布図
(東西投影)

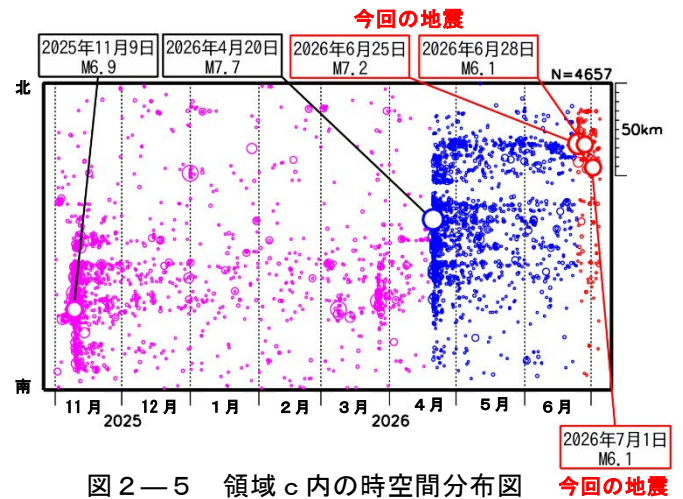


図2—5 領域c内の時空間分布図
(南北投影)

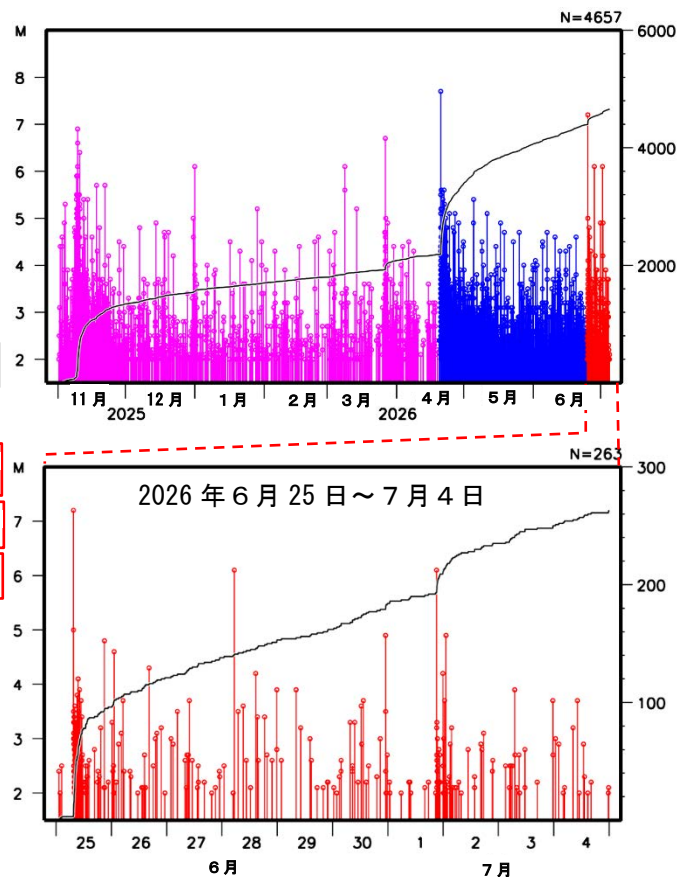


図2—7 領域c内のM-T図及び
回数積算図

イ. 発震機構

1997年10月以降に発生した地震の発震機構（CMT解）分布及び発震機構の圧力軸の分布を図2-8に示す。また、図2-8の領域d内の地震の発震機構の型の分布及び圧力軸の向きの分布を図2-9に示す。

今回の地震の震央付近では、逆断層型の地震が多く見られ、発震機構の圧力軸の向きは西北西-東南東方向の地震が多い。今回の地震（M7.2）は、発震機構が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、これまでの地震の傾向と調和的である。

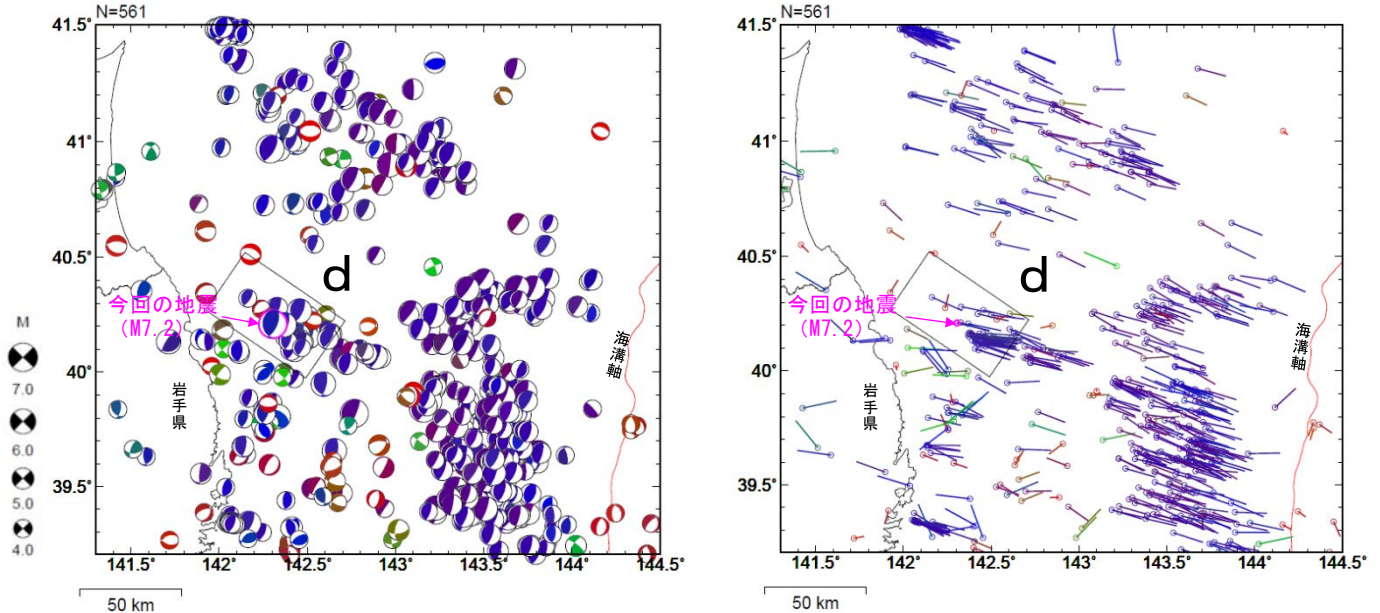


図2-8 発震機構分布図（左）、発震機構の圧力軸の分布（右）

期間：1997年10月1日～2026年6月30日、深さ：0～100km、 $M \geq 4.0$ 、発震機構はCMT解による（震源の位置に表示）。逆断層型の地震を青色、正断層型の地震を赤色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示（Frohlich (2001)による分類）。

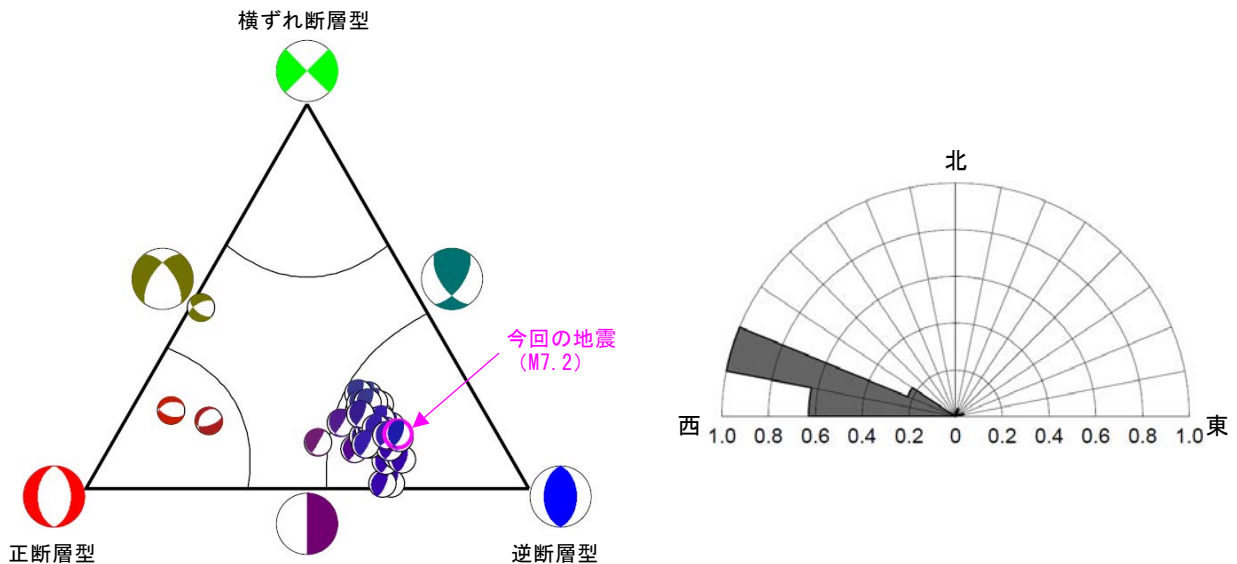


図2-9 図2-8の領域d内の地震の発震機構の型の分布（左）及び発震機構の圧力軸の方位分布（右）
発震機構の型の分布は、逆断層型の地震を青色、正断層型の地震を赤色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示（Frohlich (2001)による分類）。

ウ. 過去の地震活動

1885年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域e）では、M7を超える規模の大きな地震が度々発生するなど、地震活動が活発な領域である。1896年6月15日にはM8.2の地震（明治三陸地震）が発生し、死者21,959人などの甚大な被害となった（被害は「日本被害地震総覧」による）。

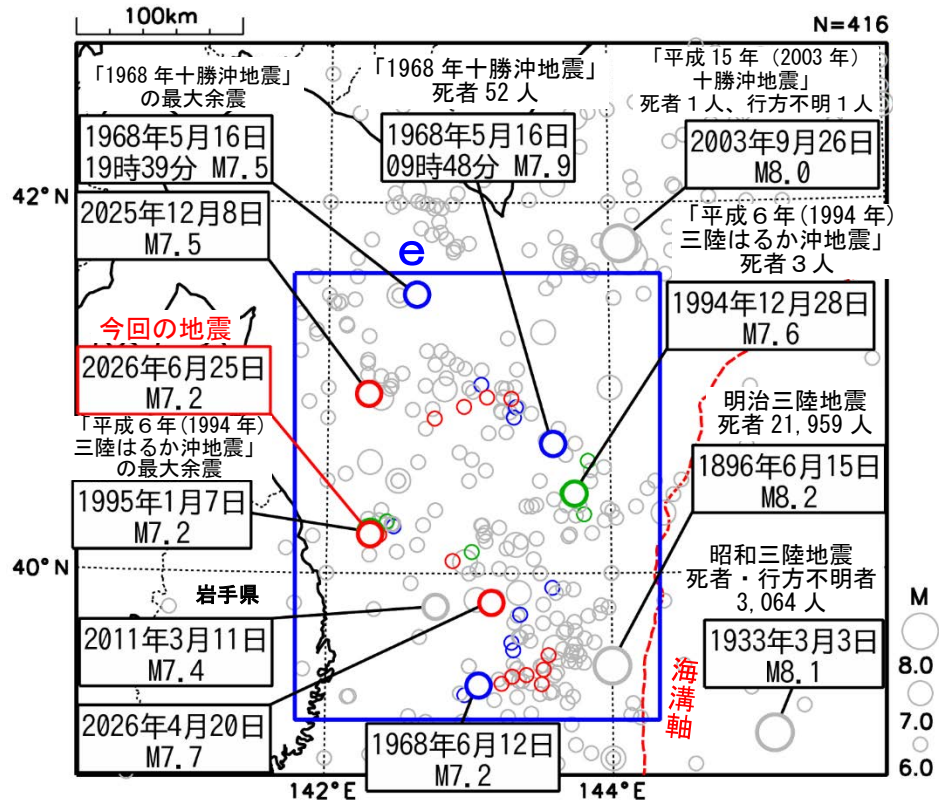


図2-10 震央分布図（1885年1月1日～2026年6月30日、深さ0～100km、M≧6.0）
 〇 1968年5月16日～1968年7月31日 〇 1994年12月28日～1995年1月31日
 〇 2025年11月1日以降 〇 上記以外の期間

震源要素は、1885～1918年は茅野・宇津（2001）、宇津（1982、1985）による※。
 被害は「日本被害地震総覧」による。

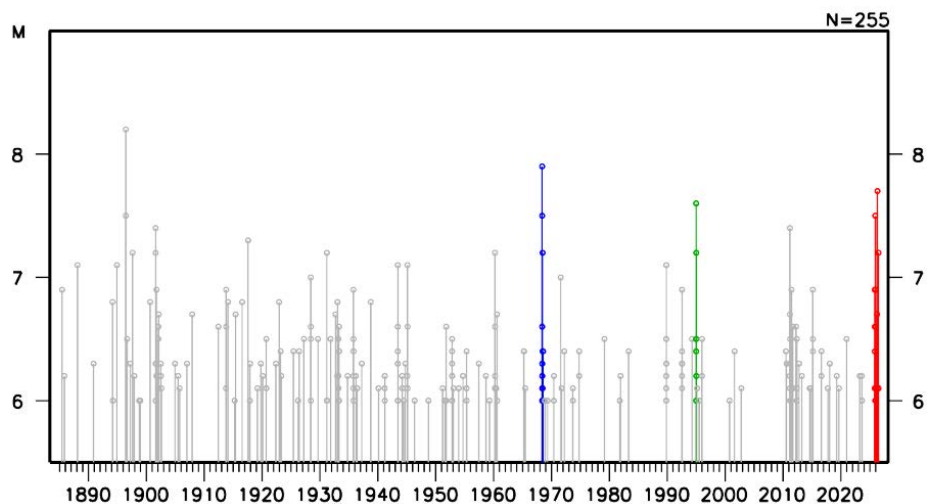


図2-9 領域d内のM-T図

※ 宇津徳治, 日本付近のM6.0以上の地震及び被害地震の表: 1885年～1980年, 震研彙報, 57, 401-463, 1982.
 宇津徳治, 日本付近のM6.0以上の地震及び被害地震の表: 1885年～1980年 (訂正と追加), 震研彙報, 60, 639-642, 1985.
 茅野一郎・宇津徳治, 日本の主な地震の表, 「地震の事典」第2版, 朝倉書店, 2001, 657pp.